

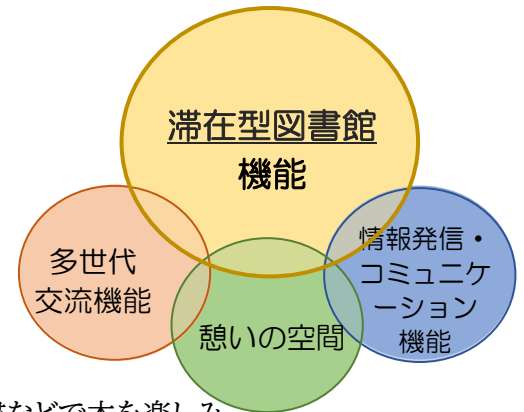
資料 2

「中心市街地拠点施設整備基本計画」(H30.1)より抜粋

1. 施設全体の方針

4つの機能の設定

- ・ICTにも対応し、日常の居場所となる全世代を対象とした
滞在型図書館機能
- ・様々なライフスタイルに対応したワークショップスペースなど多世代交流機能
- ・情報発信・コミュニケーション機能
- ・幅広い市民が気軽に立ち寄れる憩いの空間



※【滞在型図書館】単なる図書の貸し借りの場ではなく、読書などで本を楽しみ、調べものや生涯学習もできる、ゆとりある空間を持ち、また、新たな情報や人に出会え、子どもから高齢者までの多世代が交流できる図書館。

2. 4つの導入機能の基本方針

ICTにも対応し、日常の居場所となる全世代を対象とした滞在型図書館機能

【3つの基本理念】

- ◇ 市民みんなの生涯学習の場づくり
- ◇ 子どもたちが読書を楽しむ環境づくり
- ◇ 新たな情報や人に出会える居場所づくり

【基本理念を実現していくための6つの重点方針】

- ①生涯学習に役立つ幅広く豊富な蔵書
録音資料や電子資料も含め、幅広く豊富な蔵書をそろえ、市民が求める図書を提供する。
- ②市民に役立つレファレンス、展示や講座
司書がレファレンス(図書相談)、展示や講座を通して市民を生涯学習につなげる。
- ③生きる力につながる子ども読書活動
読書を楽しむ基礎を育み、中高生が大人になっても生涯学習を続けるように取り組む。
- ④郷土に魅力と誇りを感じる豊富な地域資料
歴史や文化、産業、環境等に関する資料を取集し、積極的に情報発信する。
- ⑤人権学習とバリアフリーの推進
人権学習の視点を持って幅広い分野で人権に関する図書を収集し、またバリアフリー(利用にあたっての障壁の除去)の視点を持って図書及び施設を利用しやすくする。
- ⑥市民ボランティアや行政機関との協働
市民団体や行政と協働した話題性のある行事に市民が集い、読書や生涯学習につなげる。